

# NPO☆Kyoken通信



早春号

☆特定非営利活動法人教育研究所(問題行動研究会事務局) 93号 平成21年3月2日発行

〒233-0013横浜市港南区丸山台2-26-20 TEL:045-848-3761/FAX:045-848-3742

URL: <http://kyoken.org/>

E-mail: [contact@kyoken.org](mailto:contact@kyoken.org)

世界的な金融不安が拡がり不景気の嵐は台風に変わりつつある。景気対策を政府は次々に打たなければならぬのにねじれ国会の影響か、手を打てずに救えるはずの企業の倒産が相次いで起こっている。

不景気になっても給与が保証され、私生活には殆ど影響が出ない政治家や公務員に危機意識が不足しているのが根本的に問題なのではないだろうか。こんな危機の状態では与党も野党もない。国民の生活を丸になんて守るのが政治家の真の役割なのではないだろうか。

教研も危機は相変わらず続いている。恥ずかしいことに寄付と給与の大幅な減額で凌いでいる。勿論、幹部は無給で凌いでいる。そんな中、北陸中日新聞、朝日新聞、富山テレビが報道ニュースでアピールをしてくれている。本当にありがたいことだ。

4月からの新事業として、ゴルフクラブの製造もNGF(全米ゴルフ協会)やゴルフクラブメーカーの(株)ジョブプロの支援と協力によって始まる。さらに、4年前から温めていた宇奈月杏仁豆腐(本物の杏の種、黒部の名水、地元産の牛乳を使用)ヨーロッパ風のカフェが温泉駅からトロッコ電車へ結ぶ駅、宇奈月温泉のメインストリートにあるホテルフィールの1階にオープンする。ホテルフィールの戸出支配人やベテランシェフの協力でトロッコ電車が動き出す4月20日をめざし活動が始まった。

みんな社会的に非常に有意義なことをしているNPOだから潰してはならない。理念をわかった上での協力である。死にもの狂いでこの難局は乗り切らねばならない。

幸いなことに牟田理事長の手術後の経過は、良好で強化治療入院も3月で終わる。講演活動も再開し出した。会員の皆様とともに良い春を迎えたい。

## Kyoken通信ヘッドライン

- ◎ 4月からの新事業オンライン
- ◎ 新聞記事やテレビ報道にお答えして…牟田武生
- ◎ 宇奈月だより「共同生活を通して、子どもや若者の何が変わるのか」…牟田光生
- ◎ 変わる不登校の子ども達「教育新聞社の連載から」…久玉和昭
- ◎ 楽しかった平須こどもの家の頃「書き下ろし新連載3」…牟田武生

## 宇奈月若者自立塾「3ヶ月・6ヶ月並立型プログラム」採択決定

### ◎4月開校・・・4月生募集中

富山県宇奈月にある「宇奈月若者自立塾」でのプログラムは基本的には訓練期間を3ヵ月内で修了するように実施しています。

しかし、3ヵ月の訓練期間では不十分な状態で訓練を終えてしまう若者がいます。そこで従来の訓練期間を3ヵ月延長し、生活リズム、人間関係などの調整を時間をかけて行い、合わせて「ものづくり」に主体をおいた、あたらしい「6ヶ月コース」の訓練コースが、厚生労働省から認可されました。詳しい内容は同封のパンフレットをご覧ください。

### 北陸中日新聞と朝日新聞の記事やテレビ報道にお答えして

北陸中日新聞（2月5日付） <http://www.chunichi.co.jp/hokuriku/article/news/CK2009020502000163.html>

## ニート就労へ『若者自立塾』 塾生3人だけ

厚生労働省の委託を受け富山県黒部市でニートらの就労支援をしている特定非営利活動法人(NPO法人)教育研究所が、深刻な資金不足にあえいでいる。蓄えは底をつき、独自の資金調達も、厳しい経済状況のため断念。寄付金とスタッフの賃金カットなどでしのいでいるが、このままでは活動停止の恐れもある。年末年始には職と住居を失った非正規労働者に支援を差し伸べたが、今度は救いを求める立場に立たされている。(黒部・平井剛)

教育研究所は一九七二(昭和四十七)年に横浜市で設立。全国初の通所型フリースクールを創設するなど児童生徒の不登校問題に取り組む。二〇〇五年十月に厚生省の委託事業で「若者自立塾」を黒部市宇奈月温泉に開設。ニートや引きこもりの人に合宿生活をさせ、就労や社会復帰ができるよう支援している。

牟田光生理事(31)によると、資金繰りが厳しくなったのは〇八年夏以降。牟田武生理事長が病氣入院して入塾生が減り、運営収入の約半分を占める国からの奨励金が半減した。講演やカウンセリングによる副収入も失われ、同年一月に隣接の保養所を研修施設として買い取ったことが負担としてのしかかった。

年間の運営支出は約三千五百万円。〇七年までは四千万円前後の収入があったが、〇八年は三千万円を下回った。金融機関からの借入金の返済が毎月約七十万円に及び、資金不足が深刻化した年末には疑似私募債を発行して借入金を繰り上げ返済し、金利負担を軽減化する再建策も検討したが、債券の引受先を見つけるのは難しいとして断念。

同研究所は活動の制約が少ない一般社団法人への移行と、四月から若者自立塾の中で収益事業を育てる計画を練るが、資金繰りが早急に改善するめどは立っていない。牟田理事は「問題を解決するには人を多く集めるしかない」と話し、現在わずか三人の塾生を増やしたいとする。

同研究所の卒業生の就労率は〇七年度で69・84%で、全国三十力所の若者自立塾の中で二番目に高い。牟田理事は「黒部で悩みを抱える若者の支援に少しでも長く携わりたい。そのためにも塾生の募集や活動への寄付に協力してほしい」と訴えている。問い合わせは若者自立塾＝電話0765(62)9681＝へ。

朝日新聞（2月7日付）[http://mytown.asahi.com/toyama/news.php?k\\_id=17000000902070003](http://mytown.asahi.com/toyama/news.php?k_id=17000000902070003)

（記事の内容は北陸中日新聞と重複している部分がありますので割愛させていただきます）

この2つの記事に誤りは無い。事実である。おそらく寮長を取材し、社会的に意義のあるNPOが経営的に困窮状態に陥り、倒産や撤退させてはならないという応援で書いてくれたのだと思う。暖かい支援でありがたいことだと思う。しかし、主宰者としては経営者として失格の烙印を押されたのではないかと、情けない複雑な心境だ。偽りのないコメントで返事したい。

経営コンサルタントに相談すると「経営的にはもう限界でしょう」と言う。確かに30余年非営利活動をしていて財政的にこれほど厳しい状況に立たされたことはなかった。営利目的ならば、利益が上がらないならその地域から撤退し、利益が見込めそうな地域に移転すれば済む。

なぜ、富山県でも最も田舎の東部地域で始めてしまったのだろうかと後悔も時々する。大変条件が良い契約を提示、誘致してくれる自治体があったのに、何故、地盤も知合いも殆んどない富山で初めてしまったのだろうか。リサーチが甘いと指摘を受ける時もある。

やはり、無理だったのではないだろうか。このまま続ければ破産は間違いない。理念やこれからの黒部のことを考え、旧ホールサムインを購入する資金を、おそらく日本でも始めてNPOに巨額の融資してくれた北陸銀行には申し訳ないが、保養所はユースホステルにでもし、若者の自立支援としての機能は、この問題に対して行政で最も進んでいる横浜市に戻ることも考えよう。

なぜ、富山で始めたのか？

その前にどうして、私が高不登校やひきこもり、ニートの若者の自立支援にこだわるのかから考えなければならない。ひきこもりは高不登校から継続して起きるものが多いが学校は卒業したが、就職活動や浪人からも起こるし出社拒否からも起る。原因は本人自身や家族関係によるものもあるが、学校や職場が原因のものもあり、様々な問題が複雑に絡み合う複合的な原因が多い。世界的にみても、日本と韓国にしかないのも、社会環境や家族環境が大きな原因になっていることは間違いない。

ひきこもりの人は100万人といわれる。現在、多くの人は家族の扶養の元で暮らしている。その人達が高齢化すると同時に扶養者も高齢化が進む。現在の年金制度は仕事をしている現役組が年金組を支える仕組みだ。今後、少子高齢化が進むと年金が維持できなくなり、年金が減額される可能性がある。そうすると夫婦2人はようやく暮らせるが、ひきこもりの子どもの扶養分はない。ひきこもりの子を世帯分離し生活保護に廻すことが考えられる。そうすると一人年間150万円はかかる。財源として、約1兆5000億円かかる。それ以外にひきこもりが長引くと何らかの精神的な症状が起きることが多いので医療負担が国にかかる。トヨタ自動車が最好調時の利益が2兆円だった。それが毎年かかるようになる。その人たちが働き税金を逆に納めだすと、単純に考えても倍の4兆円も違が出てくる。しかし、高不登校、ひきこもりは比較的豊かな世帯に起り、毎年増加傾向を示していると言われるが、今後はさらに増える可能性がある調査が東京の板橋区で明らかになってきている。東京都北区で生活保護の家庭に高不登校が増えて来ている話を毎日新聞社山本紀子記者に昨年6月に宇奈月まで取材に来た時に話した内容を1年間取材し、最近記事としてまとめてくれた。

生活保護世帯に不登校が多いという統計記事 <http://mainichi.jp/select/jiken/news/20090130k0000m040132000c.html>

大都市部ではそれらの負担を考えるようになり、少しずつ、ひきこもりへの対応や支援団体に補助や支援活動を行い始めている。しかし、地方行政はそれらの意識がまだまったくない。なぜ、富山で平成10年、不登校の児童生徒が10万人を超え、文部省は今までの不登校施策は有効だったのか、また、不登校の児童生徒はその後、どのような人生を送っているのか。文部省として今後どのような施策をしたらよいのかを調べるために、不登校児童生徒の追跡調査を行うことになった。対象として選ばれたのが、平成5年3月に中学校卒業した不登校生徒2万6千人の5年後の二十歳になった時を調査しようとするものだった。

文部省 不登校追跡調査については [http://www.mext.go.jp/b\\_menu/hakusho/nc/t20010912001/t20010912001.html](http://www.mext.go.jp/b_menu/hakusho/nc/t20010912001/t20010912001.html)

追跡調査の委員の一人になった私は膨大なアンケート調査を終え、最後の聴き取り調査を行った。本人からの聞き取り調査をして、不登校への対応も都市と地方では対応に大きな温度差があることが次第に分かってきた。特に卒業後の対策が地方では行政と民間の支援もなく、ひきこもらざるを得なかった事実が分かってきた。

その中で北陸地方と東北地方が特にひどい状況だった。その中でも、特に富山県は生活上は豊かだが不登校やひきこもりは身内の恥とを感じるのか、また、本人が悪いことをするわけでもないので身内で庇うという名目で、家の闇（懷）の中に囲い込んで長期化してしまう事例が多いことが分かってきた。

実際に臨床で見る限り、男尊女卑的傾向が強く残り、父親は駄目な奴と自分の期待に答えられないひきこもりの子どもを切り捨て、母親は仕事をしながら家事をこなし、姑を気にしながらも、この子を面倒みなければ、この子は生きて行けないと思ひ込み、子の面倒をみるのが生甲斐になっている母親と子どもの共依存があることが分かってきた。この仕組みがひきこもりを長引かせる大きな原因になっていることがわかってきた。

国の委員になり施策を考えたり、マスコミ向けのコメントを出す時に、私は今まで東京や横浜の大都市しか住んだことがなく、その感覚で物事を考えていた。それらのヒヤリングで日本人の大部分の人は地方に住んでいる。もっと、地方に住んでいる人の視点で考えないと大変な間違いを起すことに気がついた。

不登校の問題に30余年取組んできた私は心の問題だけでなく、義務教育課程での除籍の問題、内申書もなく出席数もない子の普通高校入学の問題に取組み成果を上げてきた自負がある。少子化の現在はこの問題は解決したと思っているが、ひきこもりの長期化や不況から来る就労問題が不登校ひきこもり経験者にとって、自立への大きな障壁になっていることがわかって来た。

困難が伴う富山県でこの問題に取組み成功すれば、全国のモデル事業になり、不登校、ひきこもり、ニート問題解決の糸口が見えてくるのではないかと思った。

そのためには、様々な成功体験が少ない彼らにとって、一番必要なことは様々な職種の就労体験が出来る場所だった。幸いなことに黒部はその条件に当てはまり、私の理念を理解してくれた北日本タスクの社長安藤建二氏と四十物昆布社長四十物直之氏が絶大な力を貸してくれた。

この両氏や北陸銀行字奈月支店の三上支店長はじめ、ニューオータニリゾートの平井社長や就労体験を受け入れてくれている会社や団体の誠意を裏切るわけにはいかない。地を張っても頑張らなければならない。

でも、20 数年暮らしても「どうせ、旅の人でしょ」と、身内扱いはして貰えない風土が色濃く残るこの地で風穴が開けられるか正念場の5年目を向える。厚生労働省の若年者就労支援は平成22年3月末で終わる。それまでに実績を残さないと国はこの事業から手を引き、本人及び家族の責任にする可能性が高い。

最後に、富山県で中学時に不登校になり、県内のあらゆる施設をたらい回しにされ、私のところに来た時は、精神疾患もないのに投薬を受け、半病人状態で心身ともにボロボロになっていた23歳の娘さんから来た手紙の一部を紹介してペンを置きたい。

前略、牟田武生先生、久玉先生、教育研究所関係者様

前書 略

不登校の子をはじめ、世の中の沢山の人は、教研を必要としています。教研に助けを求める子ども、大人、保護者はきっと沢山います。私も、不登校からずるずる大人のひきこもりになって、どうしようもない人間でしたが、牟田先生、寮長に教研宇奈月塾スタッフの方々に、自分と同じ立場のひきこもりの方々に、つまり教研の方々に助けられて社会復帰をして今は社会人として、自分だけの世界から世に戻っています。

後略

2009,1,25

彼女は現在正社員として働いている。

文責 牟田武生

うなづきだより

共同生活を通して、子どもや若者の何が変わるのか？

宇奈月自立塾 寮長 牟田光生

ひきこもり状態の若者がやっとの思いで、各相談機関にカウンセリングに行きます。そして、カウンセラーの受容的な態度に安心し、コミュニケーションが取れるようになり心の状態も次第に回復していきます。次は社会復帰だと早急に考えても、そこには大きな壁があります。本人としては自信がつけたいけれども、やっとな自分をありのままに認めて否定的なことは言わない受容的なカウンセラーと1対1のコミュニケーションが取れるようになったばかりだからです。

社会に出ると自分対多数で自分の意見を言えるようにならないと集団に入れませんし、入れない状態が続くと疎外感が生まれてきます。また、当然、自分の意見や行動に否定的な意見も出てきます。その中でも、自分の心を守っていかなければなりません。それができなければ、また、ひきこもりの状態に戻ってしまいます。

家と社会（会社）の中間的機能を持つ、自立塾は共同生活の場です。人間関係が苦手な若者には敷居も高いし、最も自分の弱点でもあり、苦手なところですが、実際に塾で生活し始めると、自然とグループの中に入り、人とのコミュニケーション機会が増え、2、3か月もするとほとんどの若者が、“苦手だ”“避けたい”という特別な意識を持たなくなっていく。これが学校や社会適応した時の最大の武器になります。

相談機関などの通所型施設も入り口としては非常に手軽に利用出来ますが、その時は過緊張状態で過ごし、

(取り繕った自分を演じる) 一日行くと、帰宅後家でぐったりしているようです。そして、回復が少し早くになると、一晩でなんとか心を落ち着かせ、また同じような状態で通う…。でも、これが2週間、1か月と続くと長続きせずまたダウンして、「やはり、私はダメなんだ」という気持ちが強く現れて来て、「どうせ、なにやっても私は長続きしない」と思い込み、本格的な5年、10年単位の長期間ひきこもりのケースもみられるようです。

人間関係やコミュニケーションが苦手で、ひきこもった状態の人達が通所で本来の姿を取戻すには、非常に時間がかかりますし、通っているのだから社会復帰はまだ伸ばしても…。所謂「逃げ」の構造が生まれてくるケースもチラホラ聞きます。

しかし、「共同生活が万能か？」と言われるとそうでないケースもあります。

共同生活では個室と相部屋で全くの別物になります、個室は生活リズム・人間関係・慣れてくるまでのいわゆる準備期間にし、本来の共同生活の良さは、“お互いさま”の謙譲精神ともいえる人間関係が身につく、相部屋でこそ発揮されてきます。(個室が長いと臨床では駄目なようです)

共同生活は自分で自分の事をしなければならぬので、身の回りの事が自然と出来るようになり、時間の使い方が上手くなり、人間関係面でも自然と気が使えるようになっていきます。

他人と生活や作業を通じて(何気ない事が全て自然とグループワークになります) 一体感が生まれ、人間関係を非常に築きやすい世界になっています。今の若者の足りないスキルを埋めるような形態になっているのではないかと、私は考えています。

今の若者は寮生活など、濃密な人間関係を避ける傾向があり、共同生活への意識もまだコミュニティーが隣近所に残る関西圏と隣は何をする人ぞ！の意識が強い関東圏では感覚が違うとも言われています。

超個人主義的な傾向が強い近頃は気を使わなければならない共同生活を嫌い修学旅行や臨海学校に行きたがらない子どもも増えているようです。共同生活に戸惑いを感じる若者も多いでしょうが、私みたいにハマると寮の方が楽だなあと感じる者もいますし、お互いの本音や本当の意味での素をさらけ出すので、それをわかった上での一生涯の友人が出来ます。相手の目線から自分を客観的に捉える事が出来るので、自分に対しての気づきが非常に多いのも特徴的です。ひきこもっている状態は気づきがあるような感じがしますが、内面や自分の世界だけでの気づきなので、他者や社会では通用しません。目に見えないようで、非常に目に見える形になって共同生活の訓練効果は現れて来ます。が…正直3ヶ月では共同生活体験位にしか効果が出てこないのも事実です。

せめて半年くらいは…、と正直思っていました。

その夢がかない、4月から6ヶ月コースがスタート致します。

技術的な事はもちろんですが、寮生活の期間増加による、目に見える形での効果にもご期待下さい！！



## 変わる不登校の子ども達 (上) 「教育新聞社の連載から」…久玉和昭

不登校児童・生徒数の変異は、文部科学省の調査によると平成6年までは、前年比増加が一桁の割合で推移していた。しかし平成7年から平成10年にかけて毎年二桁の前年比増加となり、7万人から一気に13万人になった。現在に至っても高止まりの状況が続き、急激に改善する様子は見られない。社会現象として統計指標が急激に変化する背景には必ずその理由が存在する。大きくわけて社会環境の変化と人間の意識変化である。NPO 法人教育研究所ではこの背景となる理由を探るために、不登校の状態になる子どもの質(タイ

プ)の変化が不登校数の増加理由に大きな寄与をしたのではないかという仮説をたて、検証を始めた。平成15年度から文部科学省のSSP研究の一環として、NPO法人教育研究所に過去に通所してきた123名の不登校の子どもたちの、心理検査の結果を分析しその意識変容を調べた。

不登校の子どもたちのYG性格検査等から、判断できたことは、従来、不登校の大半は感情的に不安定で、人間関係にひいてしまう「情緒混乱型」の子どもたちであったが、平成7年前後から、感情的には安定しているが、人間関係にひいてしまう、本来は不登校になりにくい子どもたちの割合が次第に増えてきた。もともとそういうタイプの子どもの多くは、ある程度の登校刺激を行えば不登校状況に陥ることなく学校環境になれていったはずの子どもたちであろう。また、学校現場の先生方からも「不登校の子どもたちが変わってきた」という意見が増えてきたという指摘も見過ごすことはできない。

平成4年に文部省が「どの子も不登校になりうる」という答申を出し、登校刺激よりも子どもたちの心理状況の回復を待つという対応に舵を取りはじめてから、もともと不登校状況にはならない子どもたちが、数字を押し上げたのではないかと考えられる。

これらの仮説を統計的に検証するため、平成16年に横浜市教育委員会と不登校の共同調査、平成18年度に岡山市教育委員会と共同調査を行い都市部の不登校、地方都市の不登校についてさまざまな角度からの調査分析を行った。

その結果、感情的には安定しているが、人間関係でひいてしまうタイプの子どもの割合が横浜市で41%、岡山市で36%を占めており平成7年度からの急激な不登校の増加の中にはこのようなタイプの子どもの増加が原因であるのではないかと推察される。

不登校7万人時代にはこのようなタイプの不登校の占める割合は一割強と推察されるがおそらく現在は4割前後の割合を占めているのではないと思われる。

不登校の状態像だけで判断・対応するのではなく、子どものタイプと併せて指導していく必要があるのではないだろうか。(平成21年2月16日 教育新聞掲載)

---

## 書き下ろし

### 新連載 倒産寸前になるまでの背景 (3)

牟田武生

#### 6、楽しかった平須子どもの家の頃

今から25年前(昭和58年)、不登校になる子は全国で小学校377人(出現率0.052)中学校24,059人(出現率0.42)(注1)だった。じわじわと増加していたが、まだ、社会問題化していなかった。その前後に戸塚ヨットスクールの練習生の死亡事故が相次いで起き、学校にも行かず、仕事もしない子どもや若者がいることが社会的に認知されるようになっていった。

そんな世の中に「障害を持つ人でも、みんな快適に暮らせる社会の実現を…」をスローガンに掲げ、南富士高原村(注2)工芸作家大山八三郎氏は旗揚げた。また、静岡県袋井市にあるデンマーク牧場で不登校の子どもを預かり、共同生活で子どもの回復に取り組んでいた牧師であり、獣医の高橋良臣氏(注3)は奥さんの肺癌発病治療のため東京大田区の実家に戻り、登校拒否文化医学研究所を立ち上げた。大山は当時58歳、高橋は38歳、そして、私は36歳だった。

3人の専門家がそれぞれ力を合わせ、不登校の問題に取り組んで行こうというものだった。カウンセリングは高橋、牟田が担当した。カウンセリングでひきこもり状態から心が晴れた子が、そのまま自宅で生活していても、生活リズムの問題や体力、人間関係力は改善しない。そんな折、神田精養軒社長望月氏が山梨県中富町にある100年以上建つ、古い大きな民家をご厚意で貸してくれ、高橋は「平須子どもの家」を開設した。

そこで、3ヶ月ほど共同生活をし、生活リズムが改善した子は横浜市神奈川区に作った「三ツ沢三愛センター」で寮生活をしながら、横浜市磯子区にあった「民間教育施設教育研究所」に通いその子の学力に応じた学習とカウンセリングを行っていった。子どもは全国から来た。当時、牟田は学校側に働き掛け、子ども達の本籍校（在籍校）の出席扱いをしてもらい。中には定期テストをFAXで受け、成績をつけてもらったケースもあった。出席扱いで成績があると内申書が作れる普通高校への道が開けていった。

進学を希望せず、工芸的な才能のあり、陶芸・漆器・裂き織などに興味のあるものは大山氏が運営する「南富士高原村」で生活し、大山氏と若き弟子達に指導され、工芸家や陶工裂き織職人をめざして働きだした。

カウンセリングからアウトリーチとしての家庭訪問、民間通所施設、復学、進学、就職までの子どもを中心にした一貫した流れが、3人の専門家によって20年以上前にはすでに完成していた。関わりが持てたものの多くは学校への復帰、就職していった。しかし、3人に共通したことは、経営基盤の脆弱さと子どもの回復をなによりも優先したので、子どもの学校や社会復帰の度合いが高まるにつれ、反比例するかのように経営は厳しい状況に追い遣られていった。理想をめざしたが運営の面で現実的には破綻していった。

平須子どもの家は山梨県韮崎と静岡県富士宮を結ぶ国道52号線の甲斐岩間から山道を車で30分ほど入った南アルプス山奥の戸数およそ15戸の平須窪地区にあった。集落の際を流れる小川には蔭が自生し、戦前は部落の人達は養蚕農業で暮らしを立てていた。高度経済成長期に入り、村民は都市部へ引越し、村は典型的な過疎の村になっていった。

子どもの家の2階は蚕部屋であったが、床を補強し、畳をひき、20畳の広間に作り変え男子部屋とした。客間と座敷は女子部屋とし、居間はスタッフ部屋、囲炉裏のある部屋はロビー兼事務所になっていた。その頃、高橋は不登校の生活リズムの乱れは副腎皮質ホルモンの乱れが影響しているのではないかと浜松医大と共同研究を行いながら、研究と実践の両方をこなしていた。平須子どもの家の生活基本は生活リズムの改善だった。朝起き朝食を摂り、午前中は読書や自習、午後は畑仕事や村の小路に架かる橋の修復や平均年齢が70歳を超えるおじいちゃん、おばあちゃんちゃんの話し相手やお手伝いだった。集落の人々にも受け入れられて、毎日の生活を大切にしていっていった。

その当時、高橋は回復の目安を、①日常生活の安定②対人関係の安定③社会規範を守れる④思いどおりに体を動かせる⑤将来に目標がもてるとしていた。(注4) 共同生活による回復力にはめざましいものがあった。

注1、文部省学校基本調査より当時、登校拒否の子は「学校嫌い」とされ、年間50日以上（現在は30日）理由が明確でなく欠席している者

注2、富士山麓、静岡県富士市大淵にあった。

注3、高橋良臣 <http://www.asahi-net.or.jp/~PR8Y-TKHS/index.htm>

注4、読売新聞、昭和59年7月12日朝刊より



## グループカウンセリングのお知らせ

宇奈月、横浜でそれぞれグループカウンセリングを実施します。

グループカウンセリングは、五名前後の参加者とカウンセラーが行なう小集団のカウンセリングです。

宇奈月、横浜とも牟田先生のグループカウンセリングです。今回は三回シリーズになります。

日程、参加申し込みは下記の通りです。

### ◎ 日程

富山宇奈月（AHE ビルカウンセリングルーム）

| 一回目      | 二回目      | 三回目      |
|----------|----------|----------|
| 3月8日（日曜） | 4月5日（日曜） | 5月2日（土曜） |

※ 時間はいずれも午前9：00～11：00です

横浜（教育研究所丸山台事務所カウンセリングルーム）

| 一回目       | 二回目      | 三回目       |
|-----------|----------|-----------|
| 4月11日（土曜） | 5月9日（土曜） | 6月13日（土曜） |

※ 時間はいずれも午後2：00～4：00です

※ 牟田先生の体調により日程など変更する場合がありますのでご了承下さい

.....

### —グループカウンセリング申込書—

|       |   |
|-------|---|
| 参加者氏名 |   |
| 住所    | 〒 |
| TEL   |   |
| Email |   |

※ グループカウンセリング費用

¥9,000（¥3,000×3回）

会員のかたは特典があります。

※ 参加ご希望の方は申込書にご記入の上、Fax またはメールでお申し込みください。

Fax 045-848-3742（横浜）

0765-62-1120（宇奈月）

contact@kyoken.org（メールの申し込みは氏名住所をご連絡ください）

## NPO法人教育研究所の会員の申し込みについてのご連絡

従来、会員の皆様には会費を年会費として一律5,000円お支払いいただいておりますが、平成21年1月から、1口5,000円としてお申し込みをいただきたく存じます。

昨年度の牟田先生の緊急入院に関しまして、皆様方の温かいご支援をいただき、教育研究所も何とか再建の方向で動き出すことが出来ました。牟田先生も少しずつ現場に復帰出来るまで回復し、カウンセリング、講演などの活動を始めました。

ただ、教育研究所の運営はまだまだ不安定な状況であり、運営の母体となる年会費を皆様にご協力していただけるよう、なにとぞよろしくお願い申し上げます。

会員の特典も新しく追加しておりますのでご検討いただければ幸いです。

○ 会員の有効期間はお支払いいただいた時から、1年間の有効期間となります。

○ 今年から新しく1口以上の会員の募集も行います。

※ 1口¥5,000 (1口増えるごとに¥5,000加算されます)

※ 銀行ご利用の場合は下記の口座にお支払いください。その場合は、必ずご自身のお名前を入れてください。よろしくお願い致します。

新しく会員の申込をされる方は、下記の申込書でご連絡ください。

会費納入口座は 北陸銀行 宇奈月支店 (ホクリクギンコウ ウナヅキシテン)  
名義 特定非営利活動法人教育研究所 (普) 5014010

郵便振替 00230-9-112182 特定非営利活動法人教育研究所

会員の方には、

○ カウンセリング料の割引 1万5千円→1万円

○ 年5回程度の定期通信の発行

○ 講演会などのイベントのお知らせ

○ お母さんたちのミニ図書館の利用

・ 新特典

○ グループカウンセリングの割引(1口につき1回無料)

※ グループカウンセリングは年3回、横浜・宇奈月で実施します。

○ 教育研究所温泉宿泊施設 (AEHビル) をご家族で利用できます。

※ 1口につき二名まで一泊無料 (朝食含む) となります。(ただし、4月から11月まで)

.....

新規入会申込書 (新しく会員になる方は郵送か FAX またはメールでご連絡ください)

(郵便振替でお申込みいただく方は必要有りません)

|       |   |
|-------|---|
| 入会者氏名 |   |
| 住所    | 〒 |

郵送先 〒233-0013 横浜市港南区丸山台 2-26-20 Fax 045-848-3742

## NPO法人教育研究所講演会とQ&A

### 「働く気のない若者たち」

～不登校・ひきこもりの受容的対応の副作用～

講師／牟田 武生 教育コンサルタント

NPO法人教育研究所理事長  
文部科学省「生徒指導等関連事業審査委員」  
富山県「仕事と生活の調和推進会議委員」  
宇奈月「若者自立塾」主宰

背景に精神疾患が見られないのに社会に出られない若者が増えています。医師は退却神経症や適応障害という名を付けて精神安定剤や抗うつ剤を処方しますが、その状態が長く続くことが非常に多いのが現状です。5年、10年と続くと、ますますこだわりが強くなったり、自分だけの独善的な思考が強くなったりし、社会適応はさらに難しくなります。

そのような青年の自立をどのように促していけば良いのか、臨床経験が豊富な講師とともに問題解決に向け考えていきたいと思えます。

---

#### ◎日程/平成21年3月8日(日) 黒部市民会館 203号室

受付開始：13時10分から

第一部 講演：13時30分～15時00分

第二部 質疑応答：15時10分～15時40分

第三部 6ヶ月コース合同説明会 15時50分～16時50分

参加費：500円資料代(会員無料)

#### ◎日程/平成21年3月21日(土) ゆめおおおかオフィスタワー内ウィリング横浜 5F 503

受け付け開始：13時

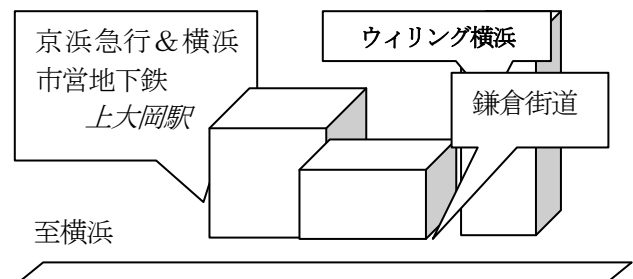
第一部 講演：13時30分～15時00分

第二部 質疑応答：15時10分～15時50分

第四部 6ヶ月コース合同説明会  
16時00分～16時50分

参加費：1,000円(会員無料)

場所：ゆめおおおかオフィスタワー内  
ウィリング横浜503号室 (5F)



### NEWSその1

富山で12月から講演会がはじまりました。12月と1月は教研OBで臨床心理士の大場先生が富山市と黒部市で、2月は牟田武生先生が富山で講演をしました。月1回の割合で富山市と黒部市で開催致します。

### NEWSその2

寮長の牟田光生がNHK総合テレビ「日本の、これから」雇用危機2月7日放送に生出演しました。2月11日のNHK第Iラジオ番組にも出ました。

### NEWSその3

教育研究所の卒業生武藤夏美さん(18)が平成20年度高校作文コンクールで文部科学大臣奨励賞を受賞しました。題名「心の涙」は中学時代のいじめ不登校をテーマにした作品です。次号、連載予定です。

## 2009年「特定非営利活動法人教育研究所うなづきの活動案内」

・ **若者自立塾**・・・3ヶ月の共同生活の中で、生活リズムの改善、人間関係のスキルを向上させ、ビジネスマナーを身に付け、様々な就労体験を通して、働く意欲を身に付け、自立することを目指します。当塾は、日本有数の設備、就労体験の豊富さ、温泉設備、ニューオータニホテルで12年間のシェフの経験がある専門料理人、有数の正社員雇用率、修了後の様々なフォローなど充実しております。

個人負担分(寮費)3ヶ月間で200,000円～300,000円、訓練費は国の負担(3ヶ月間270,000円)になります。年間世帯所得が400万円未満の低所得の方は個人負担分3ヶ月間で150,000円～200,000円になります。(ご相談下さい) 【定員 20名】

※ 2009年4月より、6か月コースも始まります。

・ **宿泊型フリースクール**・・・20年を越す通所施設の実績を基に民間施設「教育研究所」が生まれ変わります。今の不登校のタイプは通所型では長引くばかりで効果が上がりません。不登校への対応の基本は、不登校が長期間になると、本人の人生にその後、マイナスの影響を及ぼすために、なるべく短期間に再び不登校・ひきこもりにならないための対応が必要です。最近多い親子の共依存関係から離れ、自立することを目指します。

3ヶ月コース、6ヶ月コース、1年コース、高卒検取得コース、富山の県立・私立高校通学コース、地元中学転校コース、留学コース(カナダ、台湾、タイ、韓国など)、

子ども一人ひとり応じたコースを用意します。

費用、寮費、教育費、カウンセリングなど、月210,000円。(ケースワーク費用・留学費用は別途になります) 【定員 中学生6名、高校生年限の者10名】

・ **ネット依存**・・・ネット依存に陥ってしまった若者に現実社会の豊かさを学び、ネットに対して自己規制出来るようになるためには、共同生活の効果が非常に高いということが分かってきました。ネット依存の日本初めての本格的な治療コースです。プログラムは治療から学校及び社会復帰まで含まれています。状態に応じて3ヶ月コースと6ヶ月コースがあります。

費用、寮費、教育費、カウンセリング。月210,000円(ケースワーク費用は別途になります)

【定員 10名】

- ・ **短期体験合宿**・・・5泊6日の体験コースです。基本的には各コースの入塾のための体験合宿です。

(年4回程度) 35,000円、【定員 6名】

※ 厚生労働省の入塾体験費用が適応できます。(詳しくは事務局にお問い合わせください)

- ・ **自立塾OBのフォローワーク**

| コース | 内容                                     | 寮費(1ヶ月)  |
|-----|--|----------|
| A   | カウンセリング&ケースワーク+生活指導+就労体験+就職支援(全てを含むケア) | 145,000円 |
| B   | 就職活動&アルバイトの世話、ケースワークなど                 | 100,000円 |
| C   | 寮からの正規就労(3食付き)                         | 70,000円  |
| D   | フィール宇奈月(従業員寮・個室)からの正規就労(食事なし)          | 35,000円  |

※ 寮費の中には、食事代、寮費を含みます。(Dコースは食事代別です)

その他アルバイト&就労している方には布団使用料月1,000円、駐車料月1,000円(別途)が掛かります。

短期体験合宿以外の上記希望者は随時受付をしています。(但し、事前面接が必要です)

※ 各コースとも定員になり次第締切ります

- ・ **保護者のための研修会** (1泊2日)とグループカウンセリング(日帰り)

子どもや若者への対応や親としてやらなければいけないこと、子どもの再登校、社会復帰のためにしなければならないことを集中的に学びます。(年3回程度) 18,000円

若者自立塾以外は合宿所として富山県黒部市宇奈月温泉「NPO教育研究所AHEビル」を使用。

## ◎教研からの案内

- ・ 牟田先生のカウンセリング・・・再開し、随時予約受付を現在行なっております。(横浜事務所) 富山では宇奈月滞在中に行なっています。(要予約)
  - ・ 牟田先生の講演・・・・・・・・・・2月より始まりました。
  - ・ 牟田先生のグループカウンセリング・・・横浜・宇奈月とも3月より再開して参ります。
  - ・ 牟田先生のケースワーク・・・・・・・・4月より再開します。
- いずれも体調を見ながらの再開になります。急に変更が起きる場合もありますから、ご承知置き下さい

## ◎ 継続して寄附を求めています

専用寄附口座 横浜銀行 上永谷支店 店番号 323 口座番号 1442822  
 名義人 特定非営利活動法人 教育研究所 (寄付) 理事長 牟田 武生

## ボランティア募集中

教科指導の補助出来る方（英語・数学・国語）

カウンセリングやケースワークの臨床をしたい方。

時間講師募集中、高卒検程度の教科指導できる方。

技術をお持ちの方で、定年退職され、その技術を若者に伝え、若者の自立支援に役立ちたい方

## ☆お母さんたちの交流会のお知らせ☆

「毎月5～6人が集まって、お茶を飲みながらおしゃべりに花を咲かせています。共通する悩みを持つもの同士、気軽な気持ちで、息抜きにでも参加して頂ければいいなと思っています。」（卒業生の母より）

- ・同時に親の会ミニ図書館を開催。
- ・会員の方ならどなたでも利用可。
- ・不登校やひきこもりに関する本や心理の本等が300冊以上あります。

ぜひご利用下さい。予約の必要はありません。

毎月第4土曜日午後1時から4時頃まで

NPO教育研究所横浜事務所にて

参加希望者は教育研究所までお願いします。

※ 三月の交流会はお休みさせていただきますのでよろしく願いいたします。

四月からは毎月第四土曜に開きますのでご参加ください。



## 親会だより

緊急のお知らせ

教育研究所支援の会を発足します。

親の会より皆様に寄附をお願いし、温かいご支援を頂きまして厚くお礼申し上げます。

沢山の方のご協力を心から感謝しております。

牟田先生は抗がん剤の治療を続けながら、カウンセリングや講演会などの活動をお始めになられたようです。まだまだご無理をしてとのこととっております。

教研の通信・新年号に書かれていましたが、当初の再建案が昨年の不況のあおりを受け、再建案が厳しい状況になってしまいました。

教研の運営もまだまだ不安定な状況だと聞いております。

宇奈月若者自立塾では、スタッフが派遣切りにあわれた方々を支援されているニュースを見ました。

地元の方が支援してくださっていることを聞き、とても嬉しく、富山の皆様の暖かさに胸打たれました。

困難を抱えている人を救う、数少ない場所を失くしてはいけないと親の会一同は思っております。

牟田先生も困難を抱えている子どもや若者のためにこれからもお仕事を続けて下さるようです。

追い込まれた若者や子どもが安心していられる場所を、心や人生のケアに思いやりをもって力を貸して下さる場所を失くさないために、なにより教研にお世話になった親御さんや卒業生から「教研のために何かした

いけれど、どうすれば良いの？」という問いも多く、親の会では支援・協力出来ることはと考えて、「教育研究所・支援の会」を立ち上げました。

どうぞ皆様のご協力を引き続きお願い申し上げます。

教研の運営費の一部を支援していくために、一口1,000円（何口でも構いません）から、毎月、郵便貯金の口座から引き落としさせていただきたく思っております。

自分たちの出来る範囲で無理のない支援を続けていきたいですね。

支援の輪が広がることを願っております。

※ 親の会は運営費もなく、経費削減したいので教研にお願いして、教研通信の発送に同封させて頂きましたことをご了承ください。

※ 申し込み書、郵便振替依頼書などの手続き用紙は次回の教研通信と一緒に送付する予定ですのでよろしく願いいたします。

親会有志より

## ※ 平成21年3月から5月スケジュール

|    |        |  |  |
|----|--------|--|--|
| 3月 | 1日(日)  | 現地説明会(富山)  | 富山県宇奈月若者自立塾                                  |
|    | 2日(月)  | 第3期ジョブキャンプ終了   | 富山県宇奈月                                       |
|    | 8日(日)  | 富山講演会<br>6ヶ月コース合同説明会<br>グループカウンセリング<br>(富山 一回目)  | 黒部市民会館(203号室)                                |
|    | 21日(土) | 講演会・6ヶ月コース合同説明会(横浜)<br>教研「15年ぶりの同窓会&親の楽しみ会&授賞のお祝い」<br>牟田武生「厚生労働大臣賞」<br>武藤夏美「文部科学大臣奨励賞」授賞記念も兼ねるパーティーです。参加お待ちしております。 | ウイリング横浜 5F 503号室 午後1時30分から<br>横浜中華街 興福楼 6時から |
|    | 22日(日) | 現地説明会  | 富山県宇奈月若者自立塾                                  |
| 4月 | 5日(日)  | グループカウンセリング<br>(富山 二回目)  | 宇奈月 AHE ビル<br>午前9時から11時                      |
|    | 11日(土) | グループカウンセリング<br>(横浜 一回目)  | 教研丸山台事務所<br>午後2時から4時                         |
|    | 25日(土) | 横浜講演会・自立塾説明会   | ウイリング横浜 午後1時から5時                             |
| 5月 | 2日(土)  | グループカウンセリング<br>(富山 三回目)  | 宇奈月 AHE ビル<br>午前9時から11時                      |
|    | 9日(土)  | グループカウンセリング<br>(横浜 二回目)  | 教研丸山台事務所<br>午後2時から4時                         |
|    | 23日(土) | 横浜講演会・自立塾説明会   | ウイリング横浜 午後1時から5時                             |

中華街で「15年ぶりの同窓会&親の楽しみ会&授賞のお祝い」を開催します。

教育研究所の15年ぶりの同窓会&親の楽しみ会&授賞のお祝いを開催します。  
牟田武生「厚生労働大臣賞」、武藤夏美「文部科学大臣奨励賞」授賞記念も兼ねるパーティーです。

◎ 3月21日(土) 6時から8時まで開催します

場所は横浜中華街「興福楼(こうふくろう)」です。(横浜市中区山下町156 TEL045-662-8758)  
会費はひとり¥4,000円です。(参加費用は当日お支払ください)  
参加希望の方は教育研究所までご連絡ください。

連絡は、参加者の名前をご連絡してください。  
TEL、Fax、郵便、メール何でも構いません。3月15日までに連絡していただければ助かります。

TEL 045-848-3761  
Fax 045-848-3742  
住所 〒233-0013 横浜市港南区丸山台2-26-20 NPO 法人教育研究所  
E-mail [contact@kyoken.org](mailto:contact@kyoken.org)

編集後記

生活の中に仕事に戻ってきた。やはり、仕事をしないと落ちつかないのは、私も日本人特有の仕事依存なのかもしれない。内閣府や厚生労働省が進めるライフ・ワークバランス(仕事と生活の調和)の考えを入れないと私生活がなくなり、少子化の原因にもなり不登校やニートの発生原因の1つにもなる。不景気は今までの私たちの暮らしのあり方を見直すチャンスでもある。

NPO教育研究所では4月から再生に向けて、新事業が目白押しに始まる。仕事は時間や生活に追われてするのは楽しくないが、若い人と夢を語りながらやると楽しい。利益を目的とした事業ではないが、スタッフが最低暮らしていくお金と組織維持をしていく財源は確保しないと、スタッフも協力者も増えないし、組織は大きくなれない。今までの反省を踏まえ人生最後の勝負を始めようと思っている。団塊世代の中間の力を大いに借りたい。めざすは若者支援を行い日本再生だ!(ム)